

■今年の国語は！？

俳句がテーマの論説的文章の読み取りに苦労したか

■出題形式

今年度（'20年度）も大問3問で構成されており形式に大きな変化は見られなかった。文種も昨年度（'19年度）と変わらず、㊦が論説文、㊧が物語文となっていた。㊨は、知識問題と、短い論説文の論旨展開を正しく理解して脱落している段落を正しく挿入する段落整序問題という昨年通りの出題に加えて、熟語に使われる漢字を自分の言葉で説明するという珍しい問題も出題されていた。

例年同様、記述問題も選択問題もバランスよく出題されており、受験生がこれまでに養ってきた論理的思考力や知識を問う非常に質の高い入試問題となっている。

㊦の論説的文章のテーマが近年出題されることの少ない俳句であったことや、㊧の文学的文章が分かりやすく出来事があったて心情が変化するというオーソドックスなものではなかったことが昨年度よりも平均点を下げた原因だと思われる。

■出題内容

㊦ 説明的文章：『俳句のルール』井上泰至 約3000文字 笠間書院

㊧ 文学的文章：『あひる』今村夏子 約3500文字 書肆侃侃房

㊨ 段落整序問題・知識問題

㊦ いくつかの俳句を例に挙げながら、俳句は人間と自然を切り離して考える世界に立っているのではなく、どんなに自然だけを詠んでいても、その核心には作者の心という人間的な部分があるということを論じている文章。

空欄に入る季語を答える問題など俳句に関わる問題もいくつかあったが、選択問題や、例年出題される文章のテーマについて本文全体をふまえて答える問題などはしっかり対応しておきたいレベルの問題であった。昨年度よりも読み取りにくい文章ではあったが、記述問題の負担も減っており、しっかりと書きあげておきたい。

選択式5問+記述式2問（単語、80字）+季語1問+漢字1問の計9問。

【昨年度は、選択式6問+記述式2問（40字、80字）+慣用句1問の計9問】

㊧ 隣に住むおばあちゃんとみのりやみのりの家族との関わりが描かれた文章。みのりの弟が「おばあちゃんが、ひとりじゃべってる」と言いだしてから、みのりやその家族の前で不可解な行動をとることがどんどん増えていく。

おばあちゃんの身に起きたことの説明や結末もくわしく書かれておらず、場面ごとののはっきりとした心情を読み取ることが難しいため、得点がしにくかったと思われる。

選択式5問+ぬき出し1問+記述式2問（40字、60字）の計8問。

【昨年度は選択式8問+記述式1問（80字）の計9問】

㊨ 4つの問いに分かれており、i四字熟語、ii慣用句、iii段落整序問題、iv熟語に使われている漢字の説明、となっていた。i・iiは二人のやり取りの空欄にふさわしいものを考えて答えるというもの。iiiは例年通り、説明的文章の脱落している段落を正しく挿入する問題で、7の段落のうち5つの並び替えであった。元号について書かれた文章であり、明治から令和までの元号の流れを把握していれば容易に正解できたと思われる。iv「復帰」を「復起」と書くと誤りなる理由を説明させるという、論理的な思考力を問う問題であった。他の学校ではあまり見かけないタイプの問題であり、苦戦した受験生も多かったと思われる。

■合格に向けての対策

平均点の推移も考慮すると、合格するために必要な力は、まず、大問一、二の選択問題で確実に正解する力です。そして、時間配分に気を付けて問題の取捨選択をし、できる問題を確実にミスなくおさえしていく力も求められます。そのためにも、日々の学習の中で、文学的文章、説明的文章のそれぞれにふさわしい読解力を身に付け、根拠を持って選択問題に解答する力を養う必要があります。また、漢字力や語彙力を育むことも不可欠です。

出題される文章のテーマや内容が多岐にわたるため、できるだけ数多くの問題や文章に触れ、ただ問題に答えるだけでなく、その文章に書かれていた内容や説明を自らの知識として積み重ねてくることが、これからの学習に求められます。

これまで完成度が高く良質の問題が出題されているので、然るべき時期に何年度分もさかのぼって取り組み、それまでに身に付けた知識や読解力、記述力を、どのように発揮すればよいのか、という練習も積み重ねてください。

特に㊨には、過去さまざまなタイプの問題が出題されているため、過去問で慣れておいて、取捨選択も含めて、本番ではきっちり対応できるようにしておきたいところです。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	60分	60分	60分
大問数	3問	3問	3問
小問数	19問	19問	21問
配点	150点	150点	150点
	男子/女子	男子/女子	男子/女子
最高点	133/128	148/144	130/130
受験者平均点	77.6/86.8	94.3/101.6	90.4/96.8
合格者平均点	85.6/101.1	104.9/121.5	98.5/113.7

※ 4科受験は、(国・算・理の合計)×1.25と4科合計のうち高い方で判定。
3科受験は、(国・算・理の合計)×1.25で判定。

■今年の算数は！？

受験算数の知識の完全習得と基本の徹底の大切さ！

■出題形式

ここ数年、形式上に目立った違いはない。'14年度から中学においても女子の募集が始まり、'14年度と'15年度は男子と女子で問題が別であった。しかし、形式としてはあまり差異がなく、'16年度より男女で共通の問題となった。'18年度は試験時間が60分から70分に変更になったが、昨年度('19年度)では60分に戻り、**1**、**2**、**3**は小問集合で大問は**4**だけになり、今年度('20年度)は昨年度と同じ形式であった。

今年度の男子の受験者平均は103.8点、合格者平均は119.1点、女子の受験者平均は98.9点、合格者平均は125.7点。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	70分	60分	60分
大問数	4問	4問	4問
小問数	25問	23問	26問
配点	150点	150点	150点
	男子/女子	男子/女子	男子/女子
最高点	147/136	150/150	150/144
受験者平均点	81.2/71.5	104.5/102.4	103.8/98.9
合格者平均点	99.0/96.1	117.6/130.2	119.1/125.7

※ 4科受験は、(国・算・理の合計)×1.25と4科合計のうち高い方で判定。
3科受験は、(国・算・理の合計)×1.25で判定。

■出題内容

- 1** (1)四則演算 (2)四則演算(逆算) (3)仕事算 (4)旅人算 (5)消去算 (6)場合の数 (7)食塩濃度
2 (1)円とおうぎ形 (2)角度 (3)比と平面図形 (4)立体切断
3 (1)平均算 (2)立体図形(錐体の体積の比較) (3)(4)平面図形(正方形の半分の面積を利用する問題)
4 関数箱の問題(箱に数を入れると入れる箱により様々な数に変化して出力される問題)

1(1)(2)は例年通りの計算問題。(3)全仕事量を設定し、Bさんの仕事量を算出する、よくあるタイプの仕事算。(4)状況図に整理し、進んだ距離を計算していけば解ける。(5)表で整理し、立式できれば後は比例式か消去算で解ける。問題文の読み間違えが無いようにしたい。(6)難関校では頻出の「固定した場合の数」×「パターン数」。短時間で解きたい。(7)溶けている食塩の量を追跡していく。濃さが不明でも「均一に溶けている」という性質から、計算の量を極限まで減らして短時間で処理したい。**2**(1)公式を知っていれば特に悩むところはない。(2) $A \times 2 = 180 - 76 + 180 - 72$ であることが立式中にわかったかの、意外と差がついたかもしれない1問。(3)典型問題。相似形を2つ発見するか作る必要がある。(4)切頭三角柱の体積の公式「断面積×高さの平均」。**3**(1)難関校では昔から出題されているタイプの平均算で、甲陽などで出題例がある。平均の倍に近い3の倍数で1つ減らした人数を決めて解く方法が一番確実か。(2)正四面体と、その正四面体の一辺の長さがすべて同じである四角錐の体積の比が1:2であることを知っていれば一瞬で解ける。知らなければ前問を参考に、頂点にできる正四面体を落としていけば立体イが2つ残り、そこから答えに辿り着ける。(3)「さすが西大和！」と賞賛に値する良問。この紙面上で解説するのは難しいが、とにかく「半分」を意識するだけで解ける。**4**(1)~(4)までひたすら丁寧に作業しなければならない。ただし大小の議論も必要のない親切設計。心穏やかな状況であれば最後まで解けるはず。

1と**2**は全て、**3**(1)前半(2)前半、**4**(1)(2)は確実に正解し、残りいくつかで120点は取りたいところ。

■合格に向けての対策

1はテキストで学習した内容が完全ならば得点源になります。ただ、基本知識を習得するだけではなく、条件を整理して処理する練習も積んでください。まれに、ここで驚くようなレベルの論理の問題や旅人算、そして数論関係(場合の数や整数の性質)の難問が出題されることもあります。「**1**は絶対全部正解しなければ！」ではなく、「知っているパターンは確実に！」という心構えで取り組み、時間的に後半で焦りを生む原因にならないようにしましょう。**2**の平面・立体の図形問題はパターンと知識を徹底して頭に入れておきましょう。平面図形では「合同・相似の発見、面積比、等積変形の利用、図形の移動」の問題に繰り返し取り組んでください。また、角度の問題では「合同、特殊な三角形の利用」になれておくことと、未知の角度を記号で設定し立式することもできるようにしておいてください。立体図形では切断に関する問題が多く、「回転体、点光源(影)、水量」も出題されるので、幅広く学習してください。また、計算が複雑になることも多いので比を利用して計算を省略できるようにする訓練をしておきましょう。**3**昨年度と今年度は小問集合で、出題に幅が見られます。「歯車、立体の切断、速さ」に関する問題など多種多様です。これらは応用レベルの平面・立体・文章題の出題で、恐らくここが合否を分ける問題であると予想されます。**4**は主に場合の数、数の性質からの出題(作業系)です。前半の小問は、問題文の意味を理解できれば簡単な知識で答えられる問題、または、基本問題が多いのでミスは許されません。しかし、小問の最後までを解ききることは難しい場合が多いので、時間配分を考えながら取り組みましょう。

昨年度に続き、今年度も取り組みやすい問題が多かったのですが、次年度は元の難易度に戻す可能性も十分考えられます。「'19年度、今年度入試は特別だった。」という認識を持ち、過去問で「これぞ西大和！」という難易度、問題形式や時間配分に慣れておく必要があります。例年であれば、150点満点中100点程度(女子なら110点)が必要なことを考えると、難問を見極めて「知っているパターンの問題」をできるだけ正解したいところです。

■今年の理科は！？

計算問題が5割以上を占める。とにもかくにも計算力。

■出題形式

大問数は例年4問で変化は無い。出題される分野の順番は毎年異なり、今年度(20年度)は地学・生物・化学・物理の順だった。

小問数はやや少なくなり33問。小問構成は用語解答2問、記号選択12問、記述説明2問、計算13問。ただし、解かなければならない問題の数的には、2~3問の計算をまとめたり、複数の記号選択問題を完答としていたりする等、実質の解答欄数は47個。また、完答問題が11問と、完答問題の小問を占める割合は他の学校の形式と比べてかなり多いと感じる。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	40分	40分	40分
大問数	4問	4問	4問
小問数	30問(46)	38問(58)	33問(47)
配点	100点	100点	100点
	男子/女子	男子/女子	男子/女子
最高点	93/78	97/92	86/90
受験者平均点	52.5/50.9	65.9/64.7	57.5/55.0
合格者平均点	59.9/61.6	72.0/79.2	62.6/65.0

※ 4科受験は、(国・算・理の合計)×1.25と4科合計のうち高い方で判定。3科受験は、(国・算・理の合計)×1.25で判定。

形式に入れるか迷ったが、理科的な基本事項については記述問題で確認をするという傾向も見られる。

■出題内容

- 1 地学 ささまざまな天体の動き(南半球の星の動き)
- 2 生物 動物の分類・水質と指標生物・アユ・アユの縄張りの大きさとコスト(労力)と利益
- 3 化学 鉄の性質・酸化鉄の性質・熱量計算
- 4 物理 もののあたたまり方・抵抗と電流・電流と発熱

以下、やや細くなるが、基本以外の問題については詳しく書き記しておく。

1(1) シドニー(南緯33.9度, 東経135.8度)で見ることができない星を選ぶ選択問題。(2) 南半球での東の空の星の動きを選ぶ選択問題。(3) 北半球と南半球で見える天体が異なる理由を選ぶ選択問題。(5) シドニーでのオリオン座の見え方を選ぶ選択問題。(6) 春分・夏至の日のシドニーでの太陽の南中高度を求める計算問題, 計2問(完答)。(7) 北半球と南半球の天体の動きに関する選択問題。(8) 南半球での南天の周極星に関する, 日周運動と年周運動の計算問題, 計2問(完答)。2(1) (2) 動物の分類の選択問題((2)は完答)。(3) 指標生物と水質の組み合わせを選ぶ選択問題。(4) アユの「脂びれ」を含む, ひれの枚数を問う問題。(5) アユの歯のつき方から, アユの食性を選ぶ選択問題。(6) アユの縄張りの大きさとコスト(労力)と利益に関するグラフ選択問題, 計3問(完答)。3(1) 酸化鉄や鉄の酸化に関する用語解答問題, 計3問(完答)。(3) 鉄の酸化にともなう重さの増加についての記述説明。(4) スチールウールと鉄粉の酸化の仕方の違いについての説明記述。(5) (6) 鉄の酸化についての質量保存の法則と, 塩酸に鉄を入れた場合の気体(水素)発生計算の複合計算問題, 計2問(完答)。(7) 赤さびと黒さびに含まれる酸素の量の比を求める計算問題。(8) 鉄の酸化にともなって発生する熱についての熱量計算。(9) 緑青の色を問う問題と, アルミニウム, 鉄, 銅の混合物を使った金属の分類に加えて, これらを使った気体発生計算, 計2問(完答)。(10) (9)に続き, 残った物質を加熱して得られた酸化物の重さ, また, 混合物をそのまま加熱して得られた酸化物の重さから, それぞれの金属に結合した酸素の重さの割合(比)を求める計算問題。4(2) (3) 電熱線を使った水の加熱実験の計算問題。(4) ささまざまなつなぎ方をした電熱線(1本, 3本並列, 3本直列)で3つのコップの水をあたためる実験について, 電熱1本あたりに流れる電流の比, かかる電圧の比, 発熱量の比を求める計算問題, 計3問(完答)。(5)~(9) 3種類の電熱線を合計9本使って, ささまざまなつなぎ方(2つコップをまたがる直列, 並列の混合回路等)をし, 4つのコップの水をあたためる実験についての計算問題, 2つの計算を完答とする問題が計2問。(8)・(9)については, 途中で電熱線が切れたものとして, その温度上昇から切れた時間を求める計算問題と, 別のコップの最終的な温度を求める計算問題。

■合格に向けての対策

やや難解なレベルの問題をそろえてくるのが西大和学園ですが, 生物の問題以外は既習単元の範囲からの出題になっています。最大の特徴は, やはり完答の問題が多い事です。偶然の正答を良しとせず, 確実に理解して答えを出せているかという事を, しつこく何度も見極めようとするつくりをしています。そこで, まずは計算単元で苦手な単元をつくらないことが大切です。地学・化学・物理における計算問題は, 正確な知識と判断による立式を手早く行えるようになっておく必要があります。やや難解と書きましたが, 西大和学園の理科は, 受験生が苦手とすると予測される単元の問題を複数集めて出題するという傾向があります。苦手な単元を残しておくこと, 大問1個分の計算問題が全滅ということにも成りかねません。

次に, 生物の問題を解くために読解力をつけ, 同時に条件整理の力をつけましょう。複数の条件を比較する力が必要になってくるので, 過去問で練習を積むことが大切です。その際, 男子であれば, 合格者平均点まで確実に届くように, 女子であれば合格者平均点に加え, 後3問~4問のリードができるようにしておく必要があるため, 過去問は1度解いて終わりではなく, 2度, 3度解いて解き慣れておくことも重要です。

■今年の社会は！？

地理は地形図の定番化 記述問題は40字と60字

■出題形式

今年度は、大問数は昨年同様で、小問数は1問減となったが、例年50問強の出題となっている。記号解答は、単純な記号選択ではなく、組み合わせ記号解答問題として例年多く出題されており、過去'16年度8問→'17年度7問→'18年度10問→昨年度('19年度)8問→今年度('20年度)13問で、組み合わせ記号解答の出題が通例化している。また、記述問題も毎年出題されるが、今年度は5問で昨年度より2問増、'17年を上回る60字以内の出題と多めの字数だった。漢字指定は9問で、昨年度より2問増となっている。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	40分	40分	40分
大問数	3問	5問	5問
小問数	53問	51問	50問
配点	100	100	100
	男子/女子	男子/女子	男子/女子
最高点	93/95	92/88	87/88
受験者平均点	73.2/74.5	67.3/65.5	65.2/64.0
合格者平均点	77.9/81.4	71.6/69.4	69.9/71.2

※ 4科受験は、(国・算・理の合計)×1.25と4科合計のうち高い方で判定。
3科受験は、(国・算・理の合計)×1.25で判定。

■出題内容

- 1 地理 京都市と外国人観光客関連の問題
- 2 地理 滋賀県堅田付近の地形図からの問題
- 3 地理 農業・水産業・工業に関する問題
- 4 歴史 文字の変遷の問題
- 5 公民 新元号「令和」からの関連問題

- 1 観光客の多い京都市関連の出題が4問あったが、そのうち京都市が食用油を回収する使い道とその目的を60字以内で答える記述問題は、過去の50字以内を上回る多さでの出題であった。訪日外国人観光客数の多い国を答える問題や、外国人観光客が急増している理由の誤文選択は、最近のテレビや新聞のニュースに気を配っておかなければ正答できないと感じられる。また、写真(マーク)を示して、IT関連の用語である「WiFi」をアルファベットで答えさせる出題もあった。
- 2 地形図の読み取りの問題は、5年連続の出題で定番化した感がある。必要な基本的知識さえあれば解答できるが、実在の地図を使用しているため、細かい地図記号や等高線を正しく読み取っていくことが重要である。昨年制定された「自然災害伝承碑」の地図記号は盲点をついてきた感が強い。地図上にある水域が湖であることの判断理由(地名を使わず)を答える問題はやや難しい。
- 3 出題連れていた農業・水産業・工業関連の問題は、一通り必ず学習するようなものばかりで、ミスの許されないレベルの出題であった。ただし、世界の漁獲量順位国の4位と6位を組み合わせで答える問題は注意が必要な出題だと感じられた。
- 4 日本の文字の変遷をテーマにした標準的レベルの問題である。漢字指定が4問で、「日本書紀」、「木簡」、「浮世絵」、2024年に予定されている新一万円札の肖像「渋沢栄一」もすべて確実に得点できるレベル。話題となっている事象には、常にアンテナをはっておきたい。
- 5 だれもが出題を予想していたにちがいない元号関連の出題であった。40字以内で答える裁判員制度導入の理由は、実施後約10年を経過していることもあり意表を突く問題と言わざるを得ない。

■合格に向けての対策

記述問題は、過去に40字指定、50字指定があり、今年度も60字、40字と多めの記述でした。出題内容も最近の世の中の動きを敏感にキャッチし、その内容を文章で表現する力が試されているので、用語だけを暗記しては正解が得られない問題となっています。ただ全般的にしっかり得点できる出題内容であるので、7割以上は確保したいところです。

地理分野については、実在の地形図は過去に天橋立、松山市、彦根市であったが今年は大津市が用いられていました。組み合わせ記号解答問題については、資料・データを正確に読み取る必要もあります。歴史・政治分野については、正誤問題への対応が大きな鍵となります。組み合わせ記号解答問題への対応については、一見複雑に映るが、逆に選択肢を利用し、消去法で消していく作業が有効です。

対策としては、『古今東西』、『日本のすがた(最新版)』、『歴史資料』、『公民資料』等で、基本的知識を身につけることは当然のことですが、過去問を多くこなし、出題パターンに慣れておいてください。時事問題の対策としては、話題となった出来事そのものを問われる場合と、その出来事をテーマとして関連する内容が出題される場合があるため、日頃からテレビ・新聞のニュースには関心をもち、社会科の学習内容と関連付けて考えられるようにしておく必要があります。